

鳥取から羽ばたいた実力派と奇跡の出逢い

指揮
米津 俊広

Toshihiro Yonezu

ピアノ
中村 公美

Kumi Nakamura

第46回

鳥取市交響楽団 定期演奏会

ロマン溢れるスラブのハーモニー



ボロディン
だったん人の踊り

Polovtsian Dances from Prince Igor

ラフマニノフ
ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18

Piano Concerto No.2 in C minor, Op. 18

ドヴォルザーク
交響曲第7番 ニ短調 Op.70

Symphony No.7 in D minor, Op. 70

2025年

10月19日[日] 14:00開演
(13:20開場)

とりぎん文化会館 梨花ホール

主催：鳥取市交響楽団 特別共催：(公財)鳥取県文化振興財団

後援：鳥取市教育委員会／鳥取市文化団体協議会／朝日新聞鳥取総局／新日本海新聞社／毎日新聞鳥取支局／読売新聞鳥取支局／TSKさんいん中央テレビ／BSS山陰放送／日本海テレビ／いなびりょんぴょんネット／日本海ケーブルネットワーク

チケット

未就学児入場不可

料金
全自由席

一般
高校生以下

1,500 円(当日2,000円)

500 円(当日1,000円)

プレイ
ガイド

とりぎん文化会館／鳥取市民会館／鳥取市文化センター／
アコヤ楽器店／丸由百貨店／エースバック未来中心／
アルテプラザ／WEBチケットととり

お問合せ

鳥取市交響楽団 井上 拓也
TEL 090-4807-1339 MAIL takuinou@gmail.com



ピアノ 中村 公美

Kumi Nakamura

鳥取市生まれ。3才からピアノを始める。鳥取大学教育学部附属小学校(現鳥取大学附属小学校)同中学校卒業。武蔵野音楽高等学校(現武蔵野音楽大学附属高等学校)ピアノ科、武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。ドイツ、ベルリン芸術大学ピアノ科入学、ライプツィヒ音楽大学ピアノ科編入、卒業。西川妙子、坂井玲子、深川庸子、石橋礼子、ソリン・エナケスク、エレナ・ラビツカヤ、ジョージ・シェボック、ヘレナ・コスタ、アレクサンダー・マルター、アルフォンス・コンタルスキー、クリストフ・タウベルトに師事。2人の子どもの育児のためにピアノを一時中断。その後、幼稚園・小学校でのソロコンサートを皮切りに、病院や老人ホームでの慰問コンサート、ソロリサイタル、2台ピアノのデュオコンサートなど、積極的に演奏活動を再開している。またドイツでは子どもから大人まで幅広い年代に指導をしており、コロナ禍以降は日本の生徒にもオンラインレッスンをを行い、後進の育成にも力を注いでいる。ドイツ、ライプツィヒ在住。



指揮 米津 俊広

Toshihiro Yonezu

1972年愛知県生まれ。愛知教育大学音楽科、同大学院を経て、東京音楽大学にて指揮を学ぶ。指揮を広上淳一、イサーク・カラブチェフスキー、ジョージ・ペーリヴァニアン各氏などに師事。東京音楽大学在学中より指揮活動を開始。日本各地のオーケストラ、オペラ等の客演を重ね、2006年、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督ジョージ・ペーリヴァニアン氏の推薦により同管弦楽団のアシスタントコンダクターとして渡欧、2010年まで研鑽を積んだ。2008年9月、第28回マスタープレイヤーズ国際音楽コンクール(ヴェネツィア)の指揮部門にて、最高位並びにブルーノ・ワルター賞を受賞。これまでにサラエボ・フィルハーモニー管弦楽団、スロヴェニア国立放送交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団などに客演している。鳥取市交響楽団とは2019年に初共演し、以来5回の演奏会を指揮。現在東京音楽大学指揮科講師。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。2024年1月14日から3月17日までTBS系列で放送されたテレビドラマ『さよならマエストロ〜父と私のアパッシオナート〜』では、西島秀俊の指揮指導を担当。ドラマの制作発表会見でも、自ら指揮を執っている。

曲目紹介

ポロディン だったん人の踊り

Polovtsian Dances from Prince Igor

科学者、医師として活動しながら作曲に打ち込んだ「ロシア5人組」の一人、アレクサンドル・ポロディンの代表作です。遊牧民族である東方のポロヴェツ人(だったん人)の脅威からロシアを守るために遠征した歴史上の人物「イーゴリ公」が主役のオペラの、もっとも有名な場面の音楽です。イーゴリ公とともに捕らわれた女性たちが故郷を思って歌う合唱、ポロヴェツ人が首領を讃える勇壮な歌と踊りなど、ロシアの「東方」を感じさせる異国情緒にあふれた音楽です。(本公演では合唱は省略します)

ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番

Piano Concerto No.2 in C minor, Op. 18

19世紀末から20世紀前半に活躍したセルゲイ・ラフマニノフの最高傑作であり、最も人気のあるピアノ協奏曲の1つです。交響曲第1番の失敗から精神的な不安定に陥ったラフマニノフが療養後に奮起して作曲し、1901年の初演時から圧倒的な賞賛とともに聴衆に受け入れられてきました。悩まし気な旋律にあふれる第1楽章、夢の中のように淡く美しい第2楽章、勇壮な主題とジャズのように自由な主題が交錯する第3楽章と、ロシア的な旋律美と迫力に満ちた音楽です。

ドヴォルザーク 交響曲第7番

Symphony No.7 in D minor, Op. 70

チェコの代表的な作曲家アントニン・ドヴォルザークの交響曲第7番は、1884年に作曲され、翌1885年にロンドンで初演されました。後の交響曲第8番、9番「新世界より」と比べると演奏頻度は少ないですが、暗い中にも緊張感漂う劇的な第1・4楽章、のどかな田園風景を思わせる第2楽章、スラヴ舞曲を思わせる哀愁的な第3楽章など、ドヴォルザーク独自の魅力溢れる作品です。またドヴォルザークは鉄道愛好家でもあり、この作品にも機関車の音を表現したリズムが登場しますので、そちらも意識してお聴きください。



管弦奏 鳥取市交響楽団

鳥取県東部で活動するアマチュアオーケストラ。1976年に発足。年1回の定期演奏会のほか、「県民による第九」鳥取公演のオーケストラ演奏も担う。地域のオーケストラとして、鳥取在住のソリスト・音楽家との共演や、地域の音楽イベントへの出演等にも積極的に取り組んでいる。

Instagram
はじめました

